

基調報告

日本の美術情報資料の基盤を客体化するための公開ワークショップ
「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための提言」

Keynote Report

Open Workshop Toward for “Review and rethinking of Japan’s art-information
infrastructure from an international perspective”

水谷 長志

東京国立近代美術館

Mizutani Takeshi

The National Museum of Modern Art, Tokyo

はじめに

JAL2014「海外日本美術資料専門家（司書）の招へい・研修・交流事業」

「平成 26 年度文化庁文化芸術振興費補助金（地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業）」

事業実施期間：2014.12.01-12.11

公開ワークショップ「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための提言」

JAL2014 最終日 2014.12.11 開催 於、東京国立近代美術館講堂

1. What is JAL?

JAL とは？

Japanese – art librarian, archivist, curator and related scholar

2. What is JAL Project?

JAL プロジェクト「海外日本美術資料専門家（司書）の招へい・研修・交流事業」とは？

海外の JAL を公募し，選考して 7 名を招へいし，2014 年の 12 月 1 日～12 月 10 日，東京・京都・奈良を巡り，日本美術資料情報の機関を見学して，意見交換する

3. What are Aims of JAL Project?

JAL プロジェクトの目的とは？

(1) 日本と海外の JAL のネットワークを構築する

Networking between JALs in Japan and those abroad

(2) 海外の JAL のネットワークを促進する

Promotion of networking among JALs outside Japan

(3) 日本の美術情報資料の基盤を客体化する

Review and rethinking of Japan's art-information infrastructure from an international perspective

4. Scope of Japanese-art and Candidates of JAL 2014

日本美術の範囲と招への候補者

日本美術： 写真・映像・マンガ・デザイン・建築等の視覚芸術全般を含む

招へい者： 図書館員に加え、日本に関わる視覚資料の扱いを専らとするアーキビスト、
ヴィジュアル・リソース・キュレータ等も招への候補者に含める

5. Collaborations with Overseas Organizations

海外関連組織期間との連携

(1) IFLA（国際図書館連盟）美術図書館分科会

2014 IFLA 美術図書館分科会パリ・サテライト・ミーティング IFLA リヨン大会

(2) ARLIS/NA など各国美術図書館協会

(3) 日本研究資料専門家組織

NCC： 北米日本研究資料調整協議会

EAJRS： 日本資料専門家欧州協会 2014 EAJRS ルーヴァン大会参加

(4) その他海外関係機関

ロンドン大学 SOAS (the School of Oriental and African Studies) / プラハ国立美術館および
国立博物館 / ブカレスト大学日本語学科

6. Seven Invitees of JAL 2014

氏名（所属機関）「WSにおける発表題目」

(1) 長谷川-Sockeel 正子（フランス国立ギメ東洋美術館図書館）「Věra Linhartová（ヴェラ・リナルト
ヴァ）の仕事と蔵書から学ぶもの」

(2) 岩瀬可奈子（ハワイ大マノア校学美術・美術史学部）「海外における日本美術画像資料の利用促進に
向けて」

(3) カワイアエア 藤田幸代（ホノルル美術館ライブラリー）「アメリカ側から見た日本 収集？公開？
そして未来へのビジョンは？」

(4) 吉村玲子（米国スミソニアン協会フリーア美術館図書館）「北米における日本美術研究と図書館：
現況と課題」

(5) 足立アン（フリーランス）「1960-1970年代の実験映画とビデオ作品のアーカイブ、保存と配布：
日本に適した取り組みと問題について」

(6) 平野明（セインズベリー日本藝術研究所図書館）「日没處の日本美術図書館」

(7) 市川義則（パリ国際大学都市日本館図書室）「一研究者の視点からの『提言』」

7. How JAL 2014 Invitees Know Cultural Information Strategies in Japan, now?

「招へい者へのアンケート」が示す日本の「情報発信力」の課題

招へい者へのアンケート

WebcatPlus / CiNii / 国立国会図書館サーチ / 近代デジタルライブラリー / 日本美術作品レファレンス事典 / 日本美術年鑑 / 国立国会図書館レファレンス共同データベース / 国立美術館所蔵作品総合目録 / 展覧会カタログ総覧 / 国指定文化財等データベース / ALC / 文化遺産オンライン / DNP Image Archives / 東文研総合検索 / 美術家書誌の書誌 / 中国絵画所在情報データベース / 想-IMAGINE / カーリル / e 國宝 / niHuINT

1

招へい者へのアンケート

知らない	0点
聞いたことはある	1点
アクセス・利用したことがある	2点
よくアクセス・利用する	3点
とてもよくアクセス・利用する	4点

2

利用されている ベスト5

1. WebcatPlus	20点
2. CiNii	18点
3. 国立国会図書館サーチ	17点
4. 近代デジタルライブラリー	14点
5. 日本美術作品レファレンス事典	13点

3

知られていない ベスト5

1. niHuINT	7人
2. 中国絵画所在情報データベース	6人
3. 想-IMAGINE	5人
4. カーリル	5人
5. e國宝	5人

文化遺産オンライン
美術図書館横断検索 ALC
も過半数に知られていないことが...

4

鶏と卵なのか...

必要がないから知られていない？

知られていないから必要がない？

そこで...

5

JALプロジェクトの目的
日本の美術情報資料の基盤を
客体化する

Review and rethinking of Japan's art-information infrastructure from an international perspective



公開WS
日本美術の資料に関わる
情報発信力の向上のための提言

6

E1643・JALプロジェクト2014：公開ワークショップ＜報告＞
 [国立国会図書館] カレントアウェアネス-E, No.274, 2015.01.22
<http://current.ndl.go.jp/e1643>

東京国立近代美術館情報資料室長・水谷長志

2014年12月11日、東京国立近代美術館において「海外日本美術資料専門家（司書）の招へい・研修・交流事業」実行委員会主催の公開ワークショップ「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための提言」が開催された。本実行委員会（会長：加茂川幸夫東京国立近代美術館長）は、東京国立近代美術館のほか国立西洋美術館、国立新美術館、東京国立文化財研究所の委員からなり、「平成26年度文化庁文化芸術振興費補助金（地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業）」により、海外日本美術資料専門家（司書）（Japanese-art librarian：JAL）を招へいして、研修、交流を実施した。

2014年の6月以降、国際図書館連盟美術図書館分科会（IFLA-ALS）、北米日本研究資料調整協議会（NCC）、日本資料専門家欧州協会（EAJRS）等のメーリングリストにより公募情報を告知し、9月初旬に招へい者を選考した。その結果、7名のJALが11月末に来日し、10日間の東京、京都、奈良における研修、交流を経て、本事業のまとめとして、「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための提言」を試みた。

招へいプレゼンターの氏名（所属）と「提言のタイトル」は次の通りである。長谷川・Sockeel 正子（フランス国立ギメ東洋美術館図書館）「Věra Linhartová（ヴェラ・リナルトヴァ）の仕事と蔵書から学ぶもの」、岩瀬可奈子（ハワイ大学マノア校美術・美術史学部）「海外における日本美術画像資料の利用促進に向けて」、カワイアエア・藤田幸代（ホノルル美術館図書館）「アメリカ側から見た日本 収集？公開？そして未来へのビジョンは？」、吉村玲子（米国スミソニアン協会フリーア美術館図書館）「北米における日本美術研究と図書館：現況と課題」、足立アン（フリーランス）「1960-1970年代の実験映画とビデオ作品のアーカイブ、保存と配布：日本に適した取り組みと問題について」、平野明（セインズベリー日本芸術研究所図書館）「日没處の日本美術図書館」、市川義則（パリ国際大学都市日本館図書室）「一研究者の視点からの『提言』」。

招へい者の提言に先立ち、実行委員の水谷が、JALの範囲と応募資格、本プロジェクトの概要を述べ、特にその目的を、(1)日本と海外のJALのネットワークを構築する、(2)海外のJALのネットワークを促進する、(3)日本の美術情報資料の基盤を客体化する、の3点に要約した。さらに近年の日本における美術関係資料・情報の基盤整備の進行があるにもかかわらず、必ずしも有効な情報発信がなされておらず、それは今回の招へい者においても日本の美術情報の基盤について十全には知悉されていないという現状にもあらわれているという趣旨の基調報告を行った。招へい者の提言に対しては、林理恵（国際文化会館図書館室長）と小出いずみ（渋沢栄一記念財団実業史研究情報センター長）がコメントした。

招へい者による「日本美術の資料に関わる情報発信力の向上のための提言」において、特徴的であったのは次の3点である。第一は日本美術の概説的研究書の外国語（とりわけ英語）への翻訳の必要性（長谷川、吉村）である。いまだに1970-80年代の翻訳書が米国における日本美術研究の入門的テキストとして利用されており、以後の研究成果を含んだ翻訳書の不在が日本美術の教育研究を阻害している要因であることが指摘された。第二は画像利用に関わるアクセスとユースのための環境整備の必要性（岩瀬）である。NCCによる「海外日本研究者の画像利用事情」に関わるシンポジウム（2008）等の取り組みがあるにもかかわらず、教育目的の画像利用などにおいて多くの課題があることがVisual Resources Librarianの立場から訴求された。第三は、欧米の美術関係機関においては学芸部門も図書部門も多くは東洋美術として括られて部局が設置されており、いわゆるCJK（Chinese-Japanese-Korean）が中核となるが、その中で、Jの専門職員が今世紀に入り多くのポジションにおいてCKに替わられている実態があること、その結果として日本美術の振興および研究に相対的遅延停滞の傾向のあることが、事例をもって示された（平野）。

以上の3点は日本美術に限らず、海外の日本研究の全般において敷衍されることはコメント（小出）においても指摘されたように、今日重大な課題となっている。

ささやかではあるが、日本美術の資料に関わる情報発信力を今後とも一層強化拡大する方策の一助として、今後とも多くの地域からの招へい者を得て、本JALプロジェクトを継続できることを願っている。

なお、本プロジェクトの概要と公開ワークショップにおける招へい者、コメントの報告は、冊子としてまとめて刊行し、あわせて東京国立近代美術館のJALプロジェクトのサイトに2015年3月末を目途に公開する予定である。